



「災害時応急受水用袋」

SKT

Q & A

1) 製品に関してのご質問

① なぜ3リットルの容器なんですか？

1人分/1日の必要な水は「3リットル」と言われています。

袋の数を数えることで、備蓄日数分がすぐに分かること。重さも誰もが持てる重量だからです。

容量が大きいポリタンクなどは、マンション高層階にお住まいの方や、お年寄り、女性ではかなりの重労働になる恐れがあります。また、水には寿命があるため、沢山受水しても飲み水としては無駄になります。こまめに受水することが良いと考えております。

② 何歳位の子供からもてますか？

2才の女の子のおさんが持ち上げることができました。5才の女の子のおさんが持って歩くことができました。

このことから、個人差はありますが、小学生のおさんでも持ち歩けると認識しております。

③ 受水口が大きいのが、なぜ良いのですか？

給水所や給水車には様々な形、大きさをした蛇口があります。細い蛇口から太い蛇口まで色々ありますので、受水時にどこの蛇口の列に並んで頂いてもご利用頂けるように、受水口が大きく開き、入れやすく、早く入れられる設計にしています。また、受水口が大きく開くので、もし容器内に異物が入ってしまっても取り出しやすく、使用後の洗浄もしやすくしてあります。

④ 受水日管理の必要性は？

水道水には、塩素が添加されています。塩素の効果は消毒・雑菌の繁殖をおさえている事です。その効果が、酸素と温度、経過時間の影響により、雑菌が繁殖しやすくなります。そのため、水道水の寿命は夏場で2～3日、冬場で5日程度とされています。この管理をする事で、飲み水として飲んで良いのかを判断して頂くための記録欄となります。

飲んで良いのか悪いのか、判断に困った場合は、飲料水以外の生活用水にお使い下さい。

期限が少し過ぎ、どうしても飲料用にしなければならない場合は、一度沸騰させてからお飲みください。

沸騰させた水はその日にお飲みください。塩素の効果なくなり、雑菌が繁殖しやすい状態になっています。

●乳幼児のミルクを作る場合、ミネラルウォーターは適しません。ミネラル分が多すぎると乳幼児に負担を掛けるからです。

ミルクメーカーも水道水を基準に粉ミルクを製造しています。受水管理をして、ミルクを作ることをお勧め致します。

⑤ 繰り返し型の良さはなんですか？

受水袋には、大きく分類しますと、使い捨てタイプと繰り返しタイプの2種類があります。

震災発生後に問題になるのが、ごみの問題です。首都直下地震の場合、断水期間は1ヶ月以上といわれています。備蓄は3日分と言われていたとしても、備蓄が無くなれば配給が給水所で受水するしか方法がありません。自治体でも受水袋を備蓄してると言っても限りはありますし、住民全員の分があるわけではありません。首都東京の屋間の人口を考えますと、消費される飲料水のペットボトルも膨大です。1ヶ月以上続く断水の後は、大量のゴミが発生することも予測しておかなければなりません。弊社としましては、震災後出来るだけごみを出さないようにしたい事と、繰り返し使用できる事で容器不足の問題を少しでも解消したいとの考えから、繰り返し型をご提案させて頂いております。

⑥ 取手部の強度は、どのくらいありますか？

「災害時応急受水用袋」に規定量の水を入れた場合、重量は約3.1キロになりますが、取手部の強度は、その重量に対し、引っ張り強度で約2倍（6キロ）以上の強度を持たせてあります。

連続荷重試験（4.7キロ荷重）におきましては、1ヶ月以上放置をし確認した結果、取手部に若干の伸びはありましたが、使用できない破損状況は認められませんでした。

⑦ 製品への書き込み欄の使用方法を教えてください。

書き込みは、油性マジックのご使用を推奨しております。

水性ペンでも書けることは確認しておりますが、乾燥までに時間がかかるようです。

くれぐれも、ボールペンなどの先端部が尖ったペンはご使用にならないでください。袋が傷つき、破損の原因になります。

受水記録に関しましては、受水場所、受水日を記録して下さい。受水槽に異物などが入った場合のリスク管理にもご利用頂けます。名前欄には、住所と名前、マンションであれば、階数と部屋番号を書き添えれば、給水担当者が1人の場合でも容易に分配管理が可能です。

⑧ 白の印刷があると受水時に水量が分かり難いと思いますが、どうしてですか？

白色にした根本的な理由としましては、暗いところでも分かりやすい色と考えて、白を採用しております。

現在市販されている透明品と比較しますと、同化せず薄暗いところでも視認性は良好です。

また、データは有りますが、太陽光の光による水温上昇を多少なりとも防ぎたいとの考えから、光を反射させる白色にさせて頂いております。

筆記性を持たせてありますので、識別性を優先してあるということと、飲料水ですから、清潔感を感じさせる色から白を選択しております。また、様々なペン色に適合し、汚れているかの確認も容易と考えています。他にもタックシールの接着性も良いので、お気に入りのシールを貼っていただいでご使用頂ければ、より識別性も向上します。

⑨ 「災害時応急受水用袋」は何回くらい使えますか

ご使用の仕方本来の性能は変わってきます。

特にチャック部を折り曲げたりしますと、ごみの侵入や、空気が通りやすくなってしまい保存性が低下します。

特にチャック部を変形させた状態での保管はお止めください。

何回使えるかの保証は出来ませんが、丁寧にお使い頂ければ十数回はご使用が可能と考えております。

また、災害時応急受水用袋に水を入れた後は、立てて保管して下さい。寝かせて保管する仕様にはなっておりません。

⑩ 10枚備蓄を推奨しているようですが、理由はどんなことですか？

一般的な家族構成は、両親と子供2人、計4人となります。2日分を1回で受水した場合、8枚を必要とします。トラブルなどで、袋を壊してしまった場合の予備分として、2枚用意をしますと計10枚になるのが根拠です。震災は、いつ起こるか分かりません。夏場の震災時は、3ℓ/1人/1日では足りない場合もあります。その事も考えて10枚を推奨しております。

⑪ スクリューキャップが硬い

密閉度を上げるためにやや硬めに設計してあります。初回開封時（ロック解除）に必要な応力は8～9ニュートンとなります。開封密閉を繰り返す事で徐々に応力は少なくなっていく傾向にありますが、キャップが変形しなければ漏れる事はありません。

⑫ スクリューキャップを紛失した

代用品として日本の飲料メーカーから販売されている、スクリューキャップ付きペットボトル500mlなどのキャップも使用頂けます。しかしながら、勘合の問題から性能は低下します。合わない物もありますので、お試しになってから、ご自分の判断でご使用下さい。

⑬ 使用後の取扱方法

使用後は水洗いをし、水を切り、良く乾燥させてから、キャップとチャックを締め、ポリ袋などを利用しゴミが入らないように保管して下さい。災害時に水洗いできない場合は、綺麗な布で水分を拭き取り、乾燥させてから保管して下さい。

（この場合、受水時に軽く水洗いしてから、飲料水をお入れ下さい）

この「災害時応急受水用袋」は、受水口が大きく開く仕様で作られています。受水口がスクリューキャップから入れる商品とは違い、この受水口が大きく開く事で、素早く完全乾燥し、繰り返し使用する場合、衛生的にまた保管できるのも特長の一つ

2) その他のご質問

① 震災発生後、どのくらいの時間で給水所から受水できますか

被害状況次第で自治体の対応にも差はあると思われませんが、震災発生後、4時間前後が目安になるようです。給水車の場合は、分かりません。

② 水の保管方法

雑菌の繁殖しやすい温度域は32～37度とされています。

出来るだけ温度が上がらない場所での保管をお勧め致します。

保冷箱や保冷バック、段ボールなどを利用して温度を上げないように保管して下さい。

③ 受水場所を教えてくださいませんか？

東京都内の給水拠点は202カ所。弊社製品をお買い上げの方のみ、給水拠点案内を差し上げております。

東京都では、2キロを目安に給水所があるようです。隣の区にある給水所が近い場合もありますので、給水拠点をご確認下さい。その他地域の給水拠点をお知りになりたい方は、弊社HPより内閣府「各自治体防災情報」にリンクを貼り付けてありますのでご覧下さい。それでも不明な場合は各自治体や地域の水道局にお問い合わせ下さい。

④ マンションの自治会や管理組合で購入を考えております。利用法は？

マンションに設置されている受水槽内にある水は、そこにお住まいの方々の共有財産です。世帯ごとに公平性を持って、分配される物と考えております。この場合、様々な容器で分配されますと、公平性が保たれなくなる可能性がありますので、共通の容器と、受水管理を徹底しなければならないと考えます。そんな時、共通の容器と受水記録付きであれば、貯水槽にある水の分配を公平に行え、マンションの受水槽に水が無くなった場合は、繰り返し型の受水袋のため、その地区の給水所で受水袋はご利用頂けます。

⑤ ポリタンクとの違いは

先ずあげられるのは、保管性。ポリタンクを非常用に用意しておきますと、場所を取る事。どうしても扱いが荒くなり、ごみを被ったりしてしまいがちで衛生的に保存しにくい点が上げられます。また入口の小さなポリタンクは容器内側を洗う事は出来ません。ポリタンクには、燃料用もあるため、誤飲事故の可能性や未使用品でも独特の臭気があるものが多いようです。非常時の水容器にはコンパクトに収納でき、衛生的で保管しやすい水専用容器が求められていることがあげられます。震災発生後、家を失われた方が避難所に行かれますが、住居に支障がない方や危険がないと判断された方は自宅で過ごされます。ライフラインが寸断された状態での生活を余儀なくされますので、衛生的に管理できる容器が良いと考えております。

「災害時応急受水用袋」は、食品の包材を製造しております、大和グラビヤで袋本体を製造しておりますので、初回受水時は、水洗いをせずにご使用頂ける事が特徴です。袋内部を洗う事が出来るのもポリタンクにはないの性能です。

18ℓのポリタンクの容積と「災害時応急受水用袋」50枚分がほぼ同等となり、容器換算でポリタンク8個分の150ℓ分になります。袋本体は、フィルムを4層に重ね合わせ、引っ張り強度の強い大変丈夫な受水用袋に仕上げてあります。

このことにより、自立性、保管性、耐久性の性能を上げ、ポリタンクには無い、コンパクトさと、デザイン性を付加させております。

※受水者は、ポリタンクとペットボトルを利用する方が多いようです。しかしながら、水を入れて良い容器かどうかは確認が必要ですし、女性だけの家族、高階層にお住まいの方々は、運搬性を考慮しますと、軽量なものが良いと考えております。